

8月の学級づくり【小学校版】

8月は、忙しかった1学期が終わり、夏休みに入ってほっと一息できるときです。また、教材研究や様々な研修に参加して、自分の学級づくりや教科指導、あるいは児童理解について、見識を広げられるときでもあります。2学期、よいスタートができるよう、リフレッシュと準備をしておきましょう。



「夏休み中の子どもと担任をつなぐ ヘチマの観察日記」

「今日、ヘチマの花が5つ咲いていた。全部雌花だった。地面に雄花らしきものが7つ落ちていた。なぜだろう...」(A児)「Aさんの発見、すごいね。明日はどうなっているかな。次のBさんの観察が楽しみです」(担任)「やっぱり、咲いていたのは雌花だけ。雄花が下に落ちている。もう一度夕方に来てみよう!」(B児)

これは、4年生の「夏休みのヘチマ観察日記」の一部から抜粋したものです。担任は、Aさんの発見に共感するとともに、AさんのこだわりをBさんの追究へとつなげています。この担任の営みは、夏休み中、続けられました。そして、子どもたちは、この観察日記を通して、「いつも学級の中に暮らしている感覚(所属感)」を持ち続けることができました。

夏休みは、子どもたちに担任の目が行き届きません。動植物の世話や観察等を通して、子どもたちの「心の居場所づくり」に心がけましょう。

2学期のスタート。 夏休みの子どもの成長をとらえましょう。

夏休みが終わり、子どもたちと数週間ぶりの再会。私たちは、子どもたちの表情の変化に驚かされます。

日焼けしてたくましくなった顔、どことなく大きくなったように感じられる体つき、少し大人びた言葉……。夏休み明けは、毎日接している中では、感じられなかった子どもたちの成長を感じることでできるチャンスです。

子どもたちにその事を伝えながら、夏休みの出来事や体験について、子どもたちと会話を楽しみましょう。夏休みの楽しさを共に感じ、その成長を喜ぶことで、主体的に活動することの満足感を位置付けましょう。

そして、多くの行事のある2学期の予定を伝え、子どもたちに見通しや願い、期待をもたせながら、充実した2学期をスタートさせていきたいものです。

子どもの心に響く ほめ方・叱り方を

教師は、子どもの成長を願い、時にはほめたり、叱ったりする場面があります。子どもが、自分の行為を受け止め、前向きに学校生活を過ごせるために、以下の点について配慮してみるとよいでしょう。

ほめる時

- ・子どもの行為に共感したり、認めたりする言葉がけをする。例えば、子どもの何気ない言動に、思いやりや責任感が表れていたら、そのよさを認めたり、価値付けたりする言葉をかける
- ・クラス全員の子どもの成長をほめるように心がける

叱る時

- ・まずは理由を聞くこと、感情的にならない
 - ・叱る時は真剣に、叱った後はさっぱりと接する
- 教師の、子どもの心に響く言葉、姿勢によって、信頼関係を高め、明るく温かな雰囲気学級を学級にもたらしめます。

支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

「作文に対する抵抗感が強い児童」

経験したことを思い出すことが苦手ですか？

遠足等がテーマであれば、その時の写真を用意し、写真を見ながら思い出してみても、

「～の時は、どうだった？」等、会話をしながら想起してみても、

文字を書くことへの苦手意識がありますか？

ノートや原稿用紙のマス目や罫線は、書きやすい大きさや幅を選択できるようにしてみても、正しい書き順や漢字の使用を最初から要求せず、書くことができたなら称賛を。

文章を順序立てて書くことが苦手ですか？

「はじめに」「つぎに」「それから」「おわりに」などのパターンを示し、聞き取りながらアウトラインメモを作り、そのメモに沿って清書してみても、